

大学の世界展開力強化事業
令和3(2021)年度採択
令和7(2025)年度フォローアップ結果
～アジア高等教育共同体(仮称)形成促進～

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会

令和8(2026)年3月30日

独立行政法人 日本学術振興会

フォローアップの総括

2024年度は事業4年間で整備した留学環境を活かし、SNSを使った情報発信や、同窓会ネットワーク、フィールドワーク等の交流により、学生同士の強いつながりが形成されたことがうかがえた。

また、単位取得を伴う派遣・受入については増加傾向が続き、全体で7割を超えていることに加え、ジョイントディグリープログラムの確立やダブルディグリープログラムの拡大等も見受けられることから、最終年度(2025年度)である5年目も事業のさらなる発展が期待される。

なお、このフォローアップは、大学の世界展開力強化事業の適正な事業管理を行うとともに、採択プログラムにおける円滑な事業実施の支援や成果の還元のため、各取組の進捗状況等を確認することを目的に実施しているものである。

計画の進捗状況や設定した達成目標に対する実績(派遣・受入学生数)等を、取組内容の進捗状況および調査票によりフォローアップの上、各事業から提出された特記すべき事項を取りまとめた。

タイプA①: CAプラスプログラム(継続コンソーシアム)

【A①01 ○千葉大学、芝浦工業大学】 《ソーシャル・デザイン・イニシアティブ》



ソーシャルな課題を解決できる人材を育成するためには、現場での活動が必須である。実際のフィールドで 調査し、自らの考えを実際に問題を抱えている人々に提案し、リアルなフィードバックを得る、それらを繰り返すことが重要となる。2024年度に実施したIntensiveSDI8つのうち6つについて、Alibaba(中国)、SK telecom(韓国)、墨田区(日本)、Klongsa Local Community(タイ)、MUJI(日本)、Rotan Trangsan Tourist Village (インドネシア)に課題スポンサーとして実際の課題、フィールドを提供頂いた。



SK telecomに課題スポンサーとして参画頂き
延世大学で開催されたIntensive SDI(2024年8月)



無印良品、墨田区に課題スポンサーとして参画頂き千葉
大学で開催されたIntensive SDI(2025年2月)

タイプA①: CAプラスプログラム(継続コンソーシアム)

【A①02 東京大学】 ≪アジアの国際関係・公共政策:DD、交換留学、
オンライン教育のためのBESETO + NUS共同教育基盤形成≫



〈福島フィールドトリップ・原子力災害伝承館〉

キャンパスアジアジョイントコース:
クラスでの授業に加え日本の公共政策を学ぶための
サイトビジットやフィールドトリップを実施している。

ジョイントコースでは、北京大学、ソウル大学から
それぞれ教員を招聘し、東京大学教員と共同で授業を
開催した。

実施時期	訪問先、アクティビティ等
2024. 5	日本銀行訪問
2024. 7	財務省訪問
2024. 7	黒田東彦元日銀総裁とのディスカッション
2024. 10	福島フィールドトリップ
2024. 11	復興庁訪問

〈日本の公共政策を
学ぶ省庁等への訪
問:2024年度実績〉



〈アラムナイと在校生のパーティ。
上:早稲田大学のアラムナイ 組織
の代表からの挨拶

下:修了生と現役生の交流〉



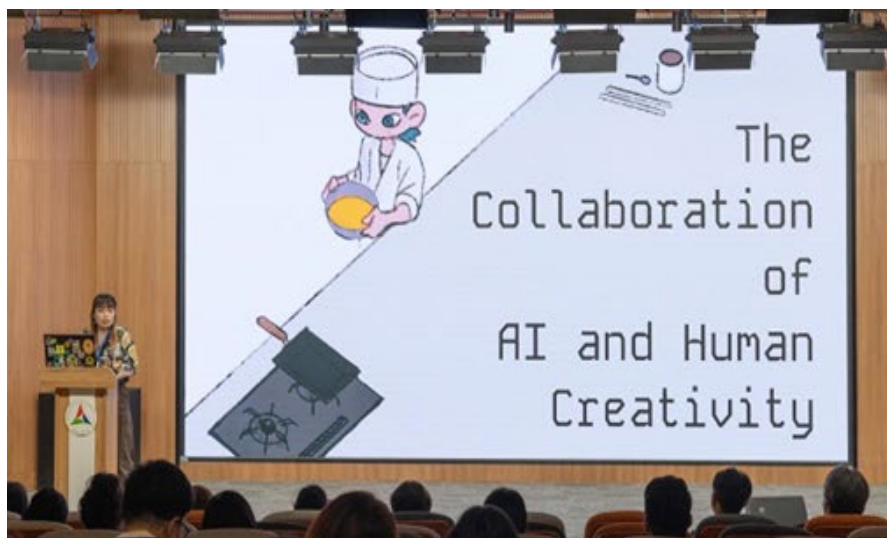
プログラム修了生と在校生のネットワーク:
2024年度は、7月にアラムナイと在校生のパーティ
を行い、早稲田大学のアラムナイ組織「WAPEKO」
メンバーとも交流をはかった。10月のプログラム
説明・相談会には3名の修了生が飛び入りで参加
して、在校生に対してプログラムの内容や修了後
の進路について相談に乗った。10月の福島フィ
ールドトリップには6名の修了生が自費で参加し、
在校生との交流を深めた。横のつながりの拡大ととも
に縦のつながりが継続してネットワークを構築でき
ている。

タイプA①: CAプラスプログラム(継続コンソーシアム)

【A①03 東京芸術大学】 ≪日中韓+ASEANの文化・経済圏発展に向けた、 アニメーション教育・研究のための共創プラットフォーム構築≫

Asia Animation Education Network(AAEN)の目標の一つは、アジアにおけるアニメーション教育をより高度化し、推進していくことである。若年層からの教育を促進するため、2024年度には学部生の参加が可能なプログラムが実施された。

その中で、課題であった日本の他大学の学生の参加を実現することができた。さらには、その参加者が東京芸術大学の大学院へ進学するなどの前向きな展開を示す事例も見られている。同様の成果は、ほかのAAEN加盟大学においても確認されており、AAENによって学生間、教員間によい人材や知識の循環が生まれている。



〈AAEN2024総会 研究発表〉



〈AAEN2024総会〉

タイプA①: CAプラスプログラム(継続コンソーシアム)

【A①04 東京科学大学】 《日中韓新先進科学技術4大学(T²KN)共同教育プログラム》

○2024年6月にキャンパスアジアプラスのオンライン同窓会を、清華大学(中国)、KAIST(韓国科学技術院/Korea Advanced Institute of Science and Technology)、南洋理工大学(シンガポール)、そして東京科学大学の4大学間で実施し、20名が参加した。今回の同窓会では、社会で活躍する修了生としてKAISTから東京科学大学プログラムに参加したアリゾナ州立大学助教にも講演を依頼するとともに、関係教職員、卒業生、参加学生が議論しながら交流する時間を設けた。これにより、プログラムの取組や成果を継続的に共有するとともに、修了生が自身の留学経験が今どのように活かしているかを共有する時間を設け、プログラム参加後、時間が経過しなければわからなかった留学の意味や意義を共有する機会となった。

○東京科学大学 CAMPUS Asia事務局が2024年度に主催した海外留学プログラムに参加した本プログラム学生が、2025年2月に同窓会イベントを開催し、本プログラムの清華大学・KAIST受入学生および派遣学生との交流を行った。本プログラム留学経験の共有や、三大学間の学生同士の活発な議論による交流が行われた。

○2025年2月10日にKAISTにおいて、東京科学大学との合同のシンポジウムを行い、東京科学大学、KAISTから、キャンパスアジアに関係の深いそれぞれ4名の教員が研究発表を行うことで、両大学間の交流を行った。

○2022年後学期から2023年前学期に研究交流プロジェクトの科目を新設し、受入学生が研究活動を行うことで単位を取得できるようになった。2024年度も引き続き各受入指導教員により評価が行われ、成績通知書が発行されたことで、受入学生の所属大学での単位互換による単位取得が可能となった。



〈オンライン同窓会フライヤー〉



〈KAISTとの合同のシンポジウムの様子〉

タイプA①: CAプラスプログラム(継続コンソーシアム)

【A①05 東京海洋大学】 ≪持続可能な海洋開発・利用を実現する 高度専門職業人養成プログラム—オケアヌスプラス—≫

○早期参加の取組

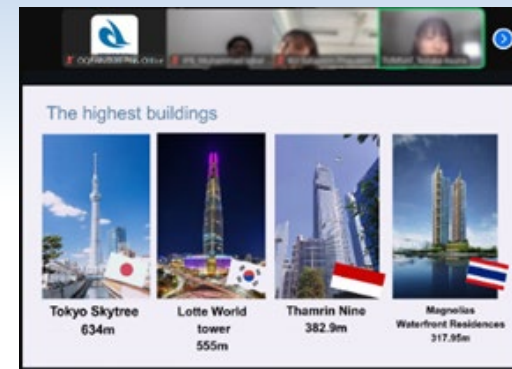
本プログラムの対象である博士前期課程は2年間と短く、特に東京海洋大学は理系学生が多いため、研究室の拘束期間・時間が長く自由が利かないことが多い。そのため、東京海洋大学では内部進学者を対象に、学部4年の冬(1月～3月)からの留学を推奨しており、実際に長期で渡航する学生の大半(2024年度末までに 出発した16名のうち、11名が該当)は当該時期に留学することで、その後の学業・研究活動・就職活動等に影響がない形で留学することが可能となっている。

○ Online Exchange Program(OEP)のプログラム改善

Online Exchange Program(OEP)の実施については、プログラム開始の2021年度から、日(東京海洋大学)中(上海海洋大学)韓(韓国海洋大学校)の大学がローテーションで主催し、毎回より充実した内容にすべく改善を図ってきた。開始当初はコロナ禍で実渡航がままならない中、OEPは本プログラムのプロモーションの役割も担っており、できるだけ参加人数を多くし、プログラムの説明や各大学の講義視聴といった受動的な内容が主であった。しかしプログラムが軌道に乗りつつある中では、より学生間の交流を促せる内容に見直すべきとの意見もあり、2024年度には、参加人数を絞り、より参加者が能動的に交流を深められるよう、ブレイクアウトルーム等を活用したグループワーク型へとプログラム構成を改善した。加えてグループディスカッションも、各国の文化や習慣の違い、各国の魅力等を題材にし、今後留学を検討している学生にとっては現地の状況を現地の学生から事前に得られる良い機会を提供することができた。

○ コンソーシアム全7大学による教員交流会の開催

2024年11月に、DDPの促進を目指し、教員間のマッチングを目的とした教員交流会を、各コンソーシアムから教員を 本学に招へいして実施した。本交流会はポスターセッション形式で行われ、コンソーシアム全7大学(上海海洋大学、韓国海洋大学校、チュラロンコン大学、カセサート大学(以上タイ)、マラヤ大学(マレーシア)、ボゴール農科大学(インドネシア)及び東京海洋大学)から計17名の教員がポスター発表を行い、コンソーシアム全体の教員交流を推進することが出来た。また、本交流会には、ポスター発表者だけでなく、本学の教員や日本人学生、留学生も参加し、特に留学に興味がある学生については派遣候補先である大学の教員の発表を聞き、研究について詳しく知るとともに、教員本人とも交流を深める良い機会となった。



〈OEP2025におけるグループ発表の様子〉



〈教員交流会の様子〉

タイプA①: CAプラスプログラム(継続コンソーシアム)

【A①06 名古屋大学】 《東アジア共通法の深化と世界への発信にむけた法的・政策的プラットフォームを支える人材育成》



＜ オンライン授業の様子 ＞

○ 国内外の卒業生や専門家による授業

短期研修の事前授業である特殊講義「東アジア法・政治入門」は、本プログラム本研究科の国内外の卒業生の実務家や研究者、中国や韓国の専門家による特別講演や授業をオンラインと対面で実施した。オンライン授業により、海外にいる卒業生にも授業を実施してもらうことができるようになり、中国や韓国と接続することでリアルタイムで現地の様子を聞いたりすることもでき、学生にとっては大きな刺激となっている。担当者の同意を得た上で特別講演や授業全て録画し、当日参加できなかった学生のために一定期間オンデマンドで公開している。長期派遣を経験した卒業生は、在学生の就職や進学相談にも乗り在学生と卒業生の交流も促進された。

○ SNSによる情報発信

昨年作成した名古屋大学法学研究科キャンパス・アジアのInstagramのアカウントは、Instagram担当グループを作ったことにより、2024年度は大幅に投稿数とフォロワー数が増えた。10代、20代の使用率が圧倒的に多いInstagramを使用するようになり、日本人卒業生、過去に本プログラムを通して日本に留学していた学生、参加を検討している学生などに、日々の出来事を写真と文章を通してプログラムの様子を頻繁に共有できるようになった。担当グループは月に一回集まり、フォロワー数を増やすためにどのように周知するか、どのような内容が学生を引き付けるか等、話し合っている。現在派遣中の学生の様子、受入れている留学生の様子、イベント関係の告知や様子などを幅広く公開し、同窓生からも良い反応をもらっている。

○ 同窓会報の作成

同窓会のネットワークを利用し、派遣された学生が主体となって同窓会報“CAMPUS ASIA PROGRAM THE JUS COMMUNE TIMES”を毎年作成している。各自が過去の留学経験を振り返った上でのプログラムに対する見解や、長期派遣を経験した在学生や卒業生、現在派遣中の学生の様子が分かるものになっており、本交流プログラムの成果を知ることができる。卒業生にはインタビューを実施し、「留学経験がどう影響しているか」、「留学の思い出」等を語っていただいた。さらに、長期受入で日本に留学をしていた学生にも「日本での一番の思い出」、「授業の感想」、「日本での普通の過ごし方」などをインタビューした。短期研修やインターンシップの体験談の紹介と感想も併せて掲載し、本年度の活動記録もまとめ、ここ数年交流の機会が減った卒業生、在学生、未来のキャンパス・アジア生もより意識したものになっている。関係各所に配布し、広報活動にも役立っている。また、同窓会報の作成を契機に、留学前の相談や就職活動中の相談が行われる程に、学生同士の強いつながりが形成された。



＜ 同窓会報 vol.10 ＞

タイプA①: CAプラスプログラム(継続コンソーシアム)

【A①07 大阪大学】 《グローバル社会における健康問題解決を担う 医学・公衆衛生学研究リーダーの育成》

2025年度内のダブルディグリー取得に向けて3名の学生が現在学位審査に挑んでいる。2021年のコロナ禍下に協定を終結したマヒドン大学、広東薬科大学との交流が順調に進んでいる。協定終結直後は感染症対策の余波を受け、実渡航の実現が厳しい状況が続いたが、2024年度にはマヒドン大学へ4名の短期派遣と19名の短期受入が実現した。例年1月～2月にかけて10人前後受け入れている延世大学の医学部生に関しては現地の医療ストライキの影響で実現は叶わなかったが、状況が改善に向かっている現在2026年1月の受入実現に向けて着実に動いている。



〈ダブルディグリープログラムを修められたAn Hangさんと総長 熊ノ郷 淳先生〉〈DDPを修了された学生とキャンパス・アジアプログラム事務局関係者〉

タイプA①: CAプラスプログラム(継続コンソーシアム)

【A①08 神戸大学】 《異分野共創によるリスク・マネジメント専門家養成共同教育プログラム》



〈タイからの看護学生の病院訪問〉

リスク・マネジメントセミナーと異分野共創の知の促進:

2024年度には、国際機関や政府機関の実務家を講師に迎え、リスク・マネジメントセミナーを18回実施した。大使、世界銀行職員、政策担当者、研究者などが登壇し、各回30名以上の学生が参加した。自然災害や公衆衛生、外交など多様な分野を扱い、実務家との対話を通じて分野横断的な視点と国際協力の実践知を深める機会となった。

キャリア支援: 2024年度には、英語によるキャリアセミナーや国際機関でのインターンシップ支援を通じて、学生のキャリア形成支援を強化した。上記セミナーによって国際分野を志向する学生に対し、ネットワークの機会も提供し、キャリアパスを現実的に描けるようにした。

ASEANとの交流による研究と実践の接続:

2022年度からはラオス・タイの協定校と連携し、短期研修を実施している。派遣学生は、国際開発協力や保健・福祉分野の現場を訪問し、自身の研究関心に基づいたフィールド調査やヒアリングを行うことで、実践的知見を修士論文等の学術成果へと結びつけている。

一方、受入学生は、日本の超高齢社会における福祉や防災の現場を経験することで、自国における課題への応用や政策的示唆を得る機会となった。こうした研究とフィールドを往復する形の教育交流が実現し、学生の課題解決力と現場対応力を育成する共同教育体制を構築している。

RISK MANAGEMENT SEMINAR
グローバルな開発課題と
世界銀行の役割

井上 京子
世界銀行 中東・アフリカ地域局長
首席 プラクティスマネージャー

今村 誠也
世界銀行 東アジア・太平洋局長
首席 プラクティスマネージャー

大宮 一也
世界銀行 東アジア・太平洋局長
首席 プラクティスマネージャー

日時: 5月20日(土)
時間: 3:00 PM - 5:00 PM
場所: 国際協力研究科 1 階大会議室
・ Zoom

講師: 井上 京子 氏
今村 誠也 氏
大宮 一也 氏

Email: gais@econ.kobe-u.ac.jp
Website: https://www.kobe-u.ac.jp/gais/sem/2024/0520.html

〈リスク・マネジメントセミナー〉

キャンパスアジア・プラス・プログラム
リスクマネジメント・セミナー

キャリアセミナー:
英文履歴書とカバーレターの書き方

日時: 2024年8月1日(木)
時間: 12:30 - 1:30 pm
(日本時間)

場所: 神戸大学大学院
国際協力研究科 階大会議室
& オンライン (Zoom)

講師: 小川 啓一 教授
神戸大学大学院
国際協力研究科

オンライン参加希望者はZoomリンクを必ずお申し込みください。以下のメールアドレスまでご連絡ください。

申込み: キャンパスアジア
Email: gais@econ.kobe-u.ac.jp
Tel: 078-803-7160

〈キャリアセミナー〉

タイプA①: CAプラスプログラム(継続コンソーシアム)

【A①09 九州大学】 《エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための 大学院協働教育プログラム—プログラムのパッケージ化とASEANへの展開—》

・2024年度はマレーシア工科大学とのDD協定締結後の初の留学正規生の派遣を果たし、これまでの経験を活かした順調な滑り出しの年となった。派遣希望者は予定していた1名の枠に2名の応募があったため、派遣先との調整を計り、2名とも派遣することができた。

・2024年度からTOEICのスキルアップを目指した講習をCAプログラムの外国人教員が新設し、6名が受講した。同講義は2025年度からは総合理工学府の正式な科目として開設しており、CAプログラム生にとどまらず、学府全体のTOEICレベルアップを図っている。

・2024年度末、キャンパスアジアのアラムナイネットワーク活動において初のイベントとなる”CAMPUS Asia+EEST Reunion Symposium“をハイブリッド開催し、歴代の多くの留学生49名にも参加してもらうことができた。CAアラムナイのキャリア情報のアップデートも含め、このようなアクティビティを開催することはネットワーク構築の基盤を固めるためにも有益であった。

・CAMPUS Asia+ EEST Reunion Symposiumを行う際に教員セッションを設け、PNU(釜山国立大学/PusanNationalUniversity)より7名、SJTU(上海交通大学/ShanghaiJiaoTongUniversity)8名、UTM (マレーシア工科大学/UniversityTechnologyMalaysia)6名(合計21名)をそれぞれ招聘し2日間に亘る研究紹介講演会を開催。KU教員17名と合わせて38名の教員陣がそれぞれの研究紹介を行い、協定大学間の研究交流を深めた。



〈 UTM留学 〉



〈Reunion Symposium 教員の発表〉

タイプA①: CAプラスプログラム(継続コンソーシアム)

【A①10 九州大学】

《アジアのゼロ・エミッション持続循環型環境都市を牽引する人材育成・協働教育プログラム》



【国際シンポジウムの開催】

2025年1月に福岡市国際会議場にてAURG 14th International Symposiumを開催し、天津大学、同濟大学、西南交通大学(中国)、前橋工科大学(日本)、Hanbat National University、Gyeongsang National University(韓国)など、アジア圏の学生・教職員約100名が参加した。

九州大学からは修士学生14名がアジア地域の都市計画や建築環境に関する研究発表を行い、様々な国の学生・研究者と交流を深めた。また、会場には本事業年間活動報告書や交流プログラムの関連資料を展示し、希望者に配布するなどして本事業の取組を広く周知する機会となった。



〈 AURG2025 オープニング・セレモニー 〉



〈 本事業関連の展示コーナー 〉

タイプA①: CAプラスプログラム(継続コンソーシアム)

【A①11 長崎大学】 《アジアの大学間連携による持続的社會基盤整備を支えるグローバル育成人材事業》

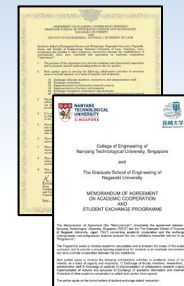
●2024年度は、新たに2024年7月にラオス国立大学と学生交流に関するMOAを締結した。その結果として2024年度中にASEAN拡張型短期留学プログラムとしてラオス国立大学から1名の学生と1名教員を受入れることができた。さらに、昨年度に続きシンガポール南洋理工大学には3名の大学院生を派遣することができた。

●学生交流プログラムの「日中韓ダブル・ディグリープログラム」及び「ハイブリッド型短期留学プログラム」、「ASEAN拡張型短期留学プログラム」を計画どおりに実施した。これまでの4年間は派遣目標人数30人に対し、実際の派遣学生が46人、受入目標人数が67人に対し、実際の受入学生が108人(学部生含む)となり大幅に目標人数を上回る実績となった。

●特に、成均館大学校へDDプログラムで派遣した2名は、2022年度のハイブリット型短期留学プログラムに参加していた学生であった。また、2024年度に短期留学プログラムで韓国に派遣した学生も2023年度のハイブリット型短期留学プログラムに参加した。一つの交流プログラムへの参加が、他の交流プログラムへの参加意欲に喚起し、今後実施する他のプログラムへもよい影響を与えている。これは、プログラム構築時に期待していた効果であり、大いに成功した事例と言える。

●2023年に「国際コラボレーションラボの設置に関する協定書」を締結し、その一環として大学間の教員およびCAMPUS ASIA参加学生による第2回研究発表会を山東大学で開催した。これは、単に学生の留学だけでなく、本事業の目的の一つである教員間および研究室間の研究交流を大いに促進させる結果となった。

●同窓生組織を活発に活用し、随時プログラムの情報を発信した。その結果、計16名の同窓生が交流プログラムの企画・運営に携わった。



〈シンガポール南洋理工大学とのMOU/ラオス国立大学とのMOA〉



〈ASEAN拡張型短期留学プログラム〉



〈第2回研究発表会〉

タイプA①: CAプラスプログラム(継続コンソーシアム)

【A①12 早稲田大学】《文明対話促進のための文化的知性を備えたソーシャルイノベーター 共同育成プログラム》

2024年度【ソーシャルイノベーションフィールドスタディ in 韓国ソウル】

●2025年2月、本学教員の引率のもと、学生9名が「CAMPUS Asia Social Innovation Field Study in Seoul 2025」に参加し、韓国・ソウルにて現地調査を実施した。協定校である高麗大学では、教員による講義および現地学生とのディスカッションを通じて、韓国における社会課題やソーシャルイノベーションに関する理解を深めた。また、Korea Social Enterprise Promotion Agency(KoSEA)を訪問し、韓国における社会的企業(Social Enterprise)の制度や支援体制についての説明を受け、現地の政策的背景を学んだ。さらに日中韓三国協力事務局(TCS)では、早稲田大学卒業生(キャンパスアジア第2モード修了生、派遣先:高麗大学)を含む職員との交流を通じて、プログラムの意義や国際機関でのキャリアに関する意見交換を行った。これらの活動を通じて、学生はソーシャルイノベーションに関する国際的視野を広げ、将来の進路選択やキャリア形成に資する実践的な学びを得た。



〈キャンパスアジア修了生職員との交流@
TCS事務所〉

2025年度【ソーシャルイノベーションフォーラム2025 @北京大学】

●2025年度のソーシャルイノベーションフォーラムは、2023年度の南洋理工大学(シンガポール)、2024年度の早稲田大学(日本)に続き、2025年7月に北京大学で開催された。4協定校から、本プログラムでの留学経験者や留学予定者を含む33名の学生が参加し、6つのグループに分かれてグループワークやディスカッションを行った。最終日には「インクルーシブな教育を実現するために～学生としての提言」を各グループが発表した。学生たちは教育費の格差、障がい児受入体制、移民の子どもへの教育など、自国の現状を分析しながら、問題解決に向けた方法を探った。議論は英語を基本とし、留学中に身につけた外国語も活用しながら、多文化的な視点で活発に行われた。

発表後は各大学の教員から講評があり、ソーシャルイノベーションへの関心をさらに深める機会となった。

この5年間の取り組みを通じて、本プログラムがアジアの将来のリーダー育成に大きく貢献していることが確認できた。今後も文化的知性を備えたソーシャルイノベーターの育成を目指し、プログラムを継続・発展させていく。



〈ソーシャルイノベーションフォーラム@
北京大学〉



〈会場となった国際関係学院教室〉

タイプA②: CAプログラム(継続コンソーシアム)

【A②01 ○立命館大学、立命館アジア太平洋大学】 ≪ 東アジアグローバルリーダー養成のための、日中韓共同運営移動キャンパス ≫

○ 自主学生団体 Campus Asia Homies による交流活動

立命館大学・立命館アジア太平洋大学・東西大学校・広東外語外貿大学の4大学に所属するプログラム生が、親睦を深めるとともに、互いの国の言語・文化をより深く理解するための活動を行うことを目的として、自主学生団体 Campus Asia Homies を運営している。

タンDEM・パートナー制度を用いた自主学習および国際交流を通じて、プログラム生としての成長を図るとともに、日中韓3カ国の学生たちによる主体的な学びを実現する一助となっている。

なお、本活動は、正課外活動において、個人または集団で自主的に取り組む異文化交流活動を行うための活動経費を助成する「立命館大学異文化交流助成金」に申請、採択された。

充実した支援の下、国や文化を異にする学生同士が積極的な異文化交流を通じて、豊かな人間関係を育む場を形成している。



〈Homies活動ガイダンス〉



〈茶道体験〉



〈日中韓交流会〉

タイプB①: CAプラスプログラム(新規コンソーシアム)

【B①01 東北大学】 《アジア型デンティストリーコンソーシアムによるマルチモーダルな グローバルリーダー育成》



〈臨床スキルトレーニング講座〉

臨床スキルトレーニングプログラムの実施

災害歯科医療学、トランスレーショナルリサーチ学、デジタル歯学に関する講義を実施すると共に、留学生向け臨床スキルトレーニングプログラムを新規設置し、実施した。具体的には審美歯科に関するデンタルフォトコースとデジタルフローコースの2コースを設置し、2024年度は、CA+inD夏季・冬季プログラムの一環として、学生向けのデンタルフォトコースを実施した。学生はコースに参加し、臨床治療に応用するための、難易度の高い様々な臨床写真の撮影方法を学んだ。

サポーター制度の充実化

2024年度は、短期受入プログラムにおける支援学生(サポーター)向けのオリエンテーションを新たに実施した。役割理解や心構えを共有することで、交流活動の質の向上を図った。



〈派遣先での活動様子〉

派遣プログラムの多様化による参加者数の増加

派遣プログラムにおいて、2週間コースと3週間コースを同時に実施したことで、柔軟な参加形態が可能となり、結果として参加者数の増加に貢献した。



〈2024年度 夏季
CA+inD
受入プログラム〉

タイプB①: CAプラスプログラム(新規コンソーシアム)

【B①02 筑波大学】 《地球規模課題解決に資する教育政策マネジメント専門人材育成プログラム》

2025年3月に本事業と教育学学位プログラムで毎年開催しているハイブリッド型国際学生カンファレンス(HISC)2025との合同国際会議を筑波大学で開催した。

期間中には華東師範大学(中国)、韓国教員大学(韓国)、バンドン工科大学(インドネシア)、コンケン大学(タイ)、マレーシア工科大学(マレーシア)、筑波大学の計6校のコンソーシアム大学による会議が初めて対面で開催され、6大学の教職員による本事業の振り返りと今後の展望についての意見交換を行った。

会議においては、各大学の修了生の進路も紹介され、公的機関への就職、博士後期課程進学等の状況を共有した。本事業の修了生も5名来日し、修了生の立場から本事業を通じて獲得した資質・能力の重要性を語るとともに、プログラムの成果と課題について振り返りを行った。これらを通じて、本プログラムで養成する人物像の具体について参加大学間での共通理解が図られた。

現在、この6大学会議の様子を記した広報用冊子を作成中である。



〈合同国際会議〉



〈6大学会議における修了生との意見交換〉



〈冊子イメージ〉

タイプB①: CAプラスプログラム(新規コンソーシアム)

【B①03 山梨大学】 《A³I: アジア実問題解決駆動AI教育プログラム》

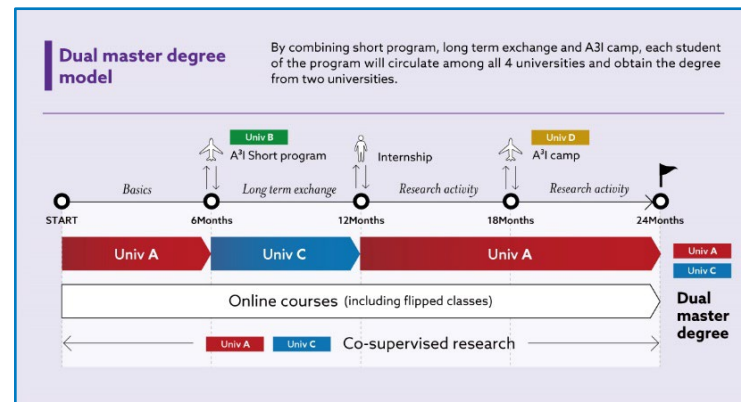
教育システムの国際化

A³Iプログラムを実施するにあたり、山梨大学の単位互換制度の見直しと設計を行なっている。これらの単位互換制度の運用経験により、大学院全体における質保証を伴う国際教育プログラムの基盤が強化されている。

大きな改革としては、海外の大学で学位を取得する学生のための新しい留学身分の構築である。これまでは、山梨大学の学生が海外の大学に留学する場合は、当該学生の身分が「留学」としていた。しかし、この身分のままでは、海外留学している学生は山梨大学で開講している授業を履修することができず、その結果、山梨大学での在籍期間が少なくとも1年以上長くなってしまいう問題があった。そこで、A³Iプログラムでは、この制度を見直し、「特別留学」の身分制度を新しく構築し、海外留学中でも山梨大学の授業を履修できるようにした。海外留学中の学生は、オンラインで本学の授業を履修する。これにより、例えば修士課程では標準的な在籍年数である2年で、山梨大学と留学先大学の学位を取得できることが可能となっている。

また、山梨大学工学専攻では大学院ディプロマポリシー(修了認定・学位授与方針)に沿った新しい授業科目を新設した。学生が海外留学先で取得した授業に対応する科目が山梨大学に開講されていなくても(シラバスレベルで高いマッチングをしていなくても)、この新設科目の単位として認定できるようにすることで、学生の授業履修負担を軽減し、研究活動に注力できるようにしたことも大きな改革であると言える。

このような単位互換スキームの導入によって、海外の大学との国際共同学位プログラムの構築が容易となり、大学全体の国際通用性を高めている。特に工学専攻電気電子工学コースへのDDプログラム拡大は、コンピュータ理工学コースで培ったノウハウを活用した具体的な成果である。



〈デュアルディグリーモデル〉

タイプB①: CAプラスプログラム(新規コンソーシアム)

【B①04 名古屋大学】 《アジア諸国における炭素ゼロナイゼーションのための人材育成》

学部学生ならびに修士課程・博士課程大学院生を含めた交流プログラムを通じて、日本・タイ・中国・韓国の国間での炭素ゼロ社会実現に向けた取り組みに関する、各国での具体的な課題を挙げて、4カ国からの視点からみた問題解決の提案ができた

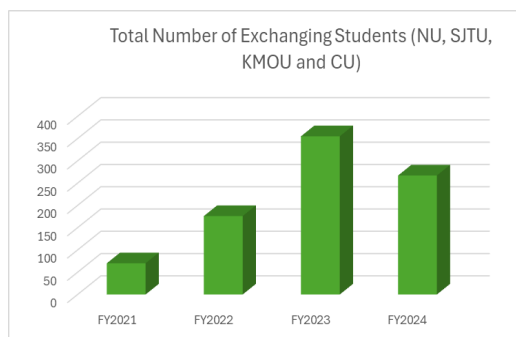
諸外国の著名な研究者を集めた国際シンポジウムとジョイントした交流プログラムを実施(2024年度)

〈 連携校間の学生発表会における議論・討論の様子 〉

〈 キャンパスアジアプログラムにおける国際シンポジウム 〉



各国の大学間での交流学生数増加に伴い、単位認定だけでなく、ジョイントディグリープログラム(チュラロンコン大学)や単位互換制度(韓国海洋科学大学校)が確立し、また全学MOUに基づくジョイントディグリープログラム整備に向けた準備が開始された(上海交通大学)



〈 派遣・受入の学生数の総計の推移 〉

既に本プログラムの中で開講していた特論の内容を拡充し、本プログラムだけでなく、広くオンラインでも受講できるビデオ講義をJV-Campus向けに整備した(2024年度)

Metal-air battery

Metal-air battery is a type of electrochemical cell in which a metal acts as the anode, and oxygen from the air acts as the cathode. The battery generates electricity through the redox reactions between the metal and oxygen. These batteries are attractive due to their high theoretical energy density, making them potential candidates for energy storage in applications like EVs and renewable energy systems.

Anode: $M + OH^- \rightarrow MOH + e^-$

Cathode: $MO_x + H_2O + e^- \rightarrow M + OH^-$

Overall: $M + MO_x + H_2O \rightarrow MOH + M$

Source: Journal of Materials Research, 2018, 32(12), 2136.

〈 JV-Campus向けのオンライン講義 〉

タイプB①: CAプラスプログラム(新規コンソーシアム)

【B①05 広島大学】 《インクルーシブ・マインドを醸成するアジア地域国際協働人材育成》

【海外相手大学との連携に基づく教育機会の提供】

COIL型協働学習においては、広島大学および北京師範大学(中国)、長春大学(中国)、韓国外国語大学、インドネシア教育大学、カセサート大学(タイ)の連携する5大学の教員が、それぞれの国におけるD&Iの現状や取組について講義を行うなど、大学間で連携した形で教育を提供している。また、本事業の連携大学以外の米国ミネソタ州 St. Cloud 州立大学の聴覚障害のある教員による手話での特別講義を実施するなど、事業の枠を超えた教育機会も提供した。

【企業・関連施設訪問等、現場での学びの機会提供】

- 短期派遣については、中国・長春では、聴覚障害・学習障害・視覚障害のある学生との交流機会を数多く設け、障害の有無にかかわらず共に学び合う大切さや、多様性を受け入れる姿勢についても深く理解を促すことができた。タイへの派遣では、ミシュラン社をはじめとする企業訪問を実施し、同社のHR部門が統括するTalent Campusを見学するとともに、D&Iの取組状況に関する説明や、障害を持つ社員による講話を通じて、ジェンダーやインクルージョンに関するグローバル企業の取組を学ぶ機会を設けた。
- サマースクールにおいては、障害のある方々が働く施設を訪問し、交流を通じて参加学生が福祉に対する理解を深めることを目的としたプログラムを実施した。作業所内で行われている軽作業の見学や利用者との懇談を通じて、学生たちは多様な生き方に触れ、社会の一員として互いを尊重し合うことの意義を学ぶことができた。こうした経験は、学生自身の価値観を広げ、将来の学びやキャリア形成においても大きな糧となっている。

【評価および事業改善の体制整備】

- 広島大学と東アジア・東南アジアの北京師範大学(中国)、長春大学(中国)、韓国外国語大学、インドネシア教育大学、カセサート大学(タイ)の5大学との密な連携と会合を通じ本事業の到達目標のみならず、学生受入の基本方針やカリキュラムの構成方針(学習内容・評価基準)、さらには修了に関する方針についても相互に確認・共有した。
- 自己点検・評価の結果および外部評価委員会による検証を踏まえ、事業の運営体制や教育プログラムの改善と質的向上に努めた。加えて、各教育プログラムについては、学生による自己評価や授業アンケート、BEVIテスト等の結果を参照し、授業内容や教育方法の妥当性を検証したうえで改善を行った。
- 外部評価委員会には、専門的知識と経験を有する4名の有識者を委嘱し、年1回の会合において多角的な助言を得ることで、本プログラムの継続的な改善を実現した。



写真上:〈COIL型 協働学習〉

中:〈短期派遣(長春)特別支援教育〉

下:〈短期派遣(タイ)ミシュラン社へ企業訪問〉

タイプB①: CAプラスプログラム(新規コンソーシアム)

【B①06 長崎大学】≪持続可能なアジアの水産と海洋環境を実現する

国際協働人材養成プログラム≫



〈 マレーシアにて開催された国際セミナー 〉

これらの取り組みは前年度においてもトレンガヌ大学主催の国際セミナー(8月)、North Pacific Marine Science Organization (PICES) 年次会議における特別セッション(10月)などが開催されており、のべ6名の教職員および3名の学生が本学から研究成果を発表した。9月には本学の教員3名および留学生1名がマレーシアトレンガヌ大学を訪問し、研究発表セミナーや研究紹介、生活紹介などを通じて関係を強化した。

〈 トレンガヌ大学における交流事業 〉

長崎大学、中国海洋大学、釜慶大学(韓国)、マレーシアトレンガヌ大学4大学の教員・学生による研究交流が継続している。令和6年度においても釜慶大学校主催による国際セミナー(8月)、中国海洋大学創立100周年行事への参加(10月)、釜慶大学校における打ち合わせ(12月)、マレーシアトレンガヌ大学-長崎大学の共同ウェビナー(1月)などが挙げられる。

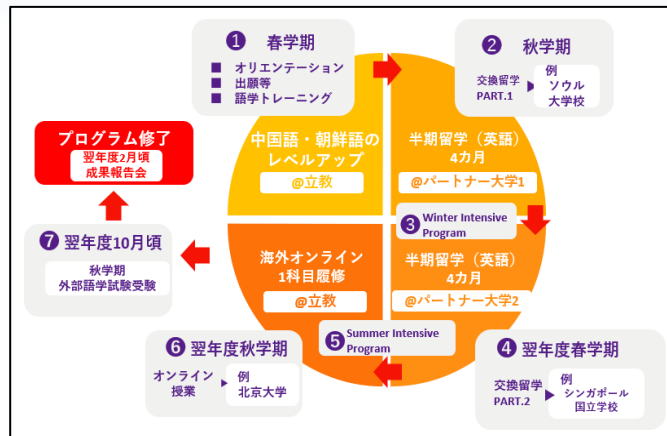


タイプB①: CAプラスプログラム(新規コンソーシアム)

【B①07 立教大学】 ≪リベラルアーツの高度化に向けたアジア4大学共同体
 ー国際共同副専攻によるグローバルリーダー育成≫

【2大学連続留学】

リベラルアーツを意識した授業を複数の国で受講することで、日本を含めた3カ国のリベラルアーツを比較し、各国のリベラルアーツの教え方、考え方を比較する経験を経て、複眼的な視点を獲得した。



〈ACEプログラムモデルケース〉

- 1.言語力強化
- 2.第1派遣留学
- 3.ウインターインテンシブ
- 4.第2派遣留学
- 5.サマーインテンシブ
- 6.共通オンライン科目
- 7.最終プレゼンテーション



〈 2期生成果報告会 〉

【インテンシブプログラム】

日中韓の三国の間の歴史問題はデリケートであるため、インテンシブプログラムのテーマ設定については、文化に特化する傾向が強い。しかし、これでは毎回のインテンシブプログラムは類似した内容になってしまい、単調なプログラムとなることが懸念された。そのため立教大学ではテーマ設定を「リーダーシップ」や「防災」といった立教大学の強みを使ってテーマ設定を行い、プログラムを展開した。これによって、次世代を担う学生たちに対して、リベラルアーツをどのように社会に活かすのかという経験を提供した。



〈 サマーインテンシブプログラム2024(立教) 〉

交流学生の実績

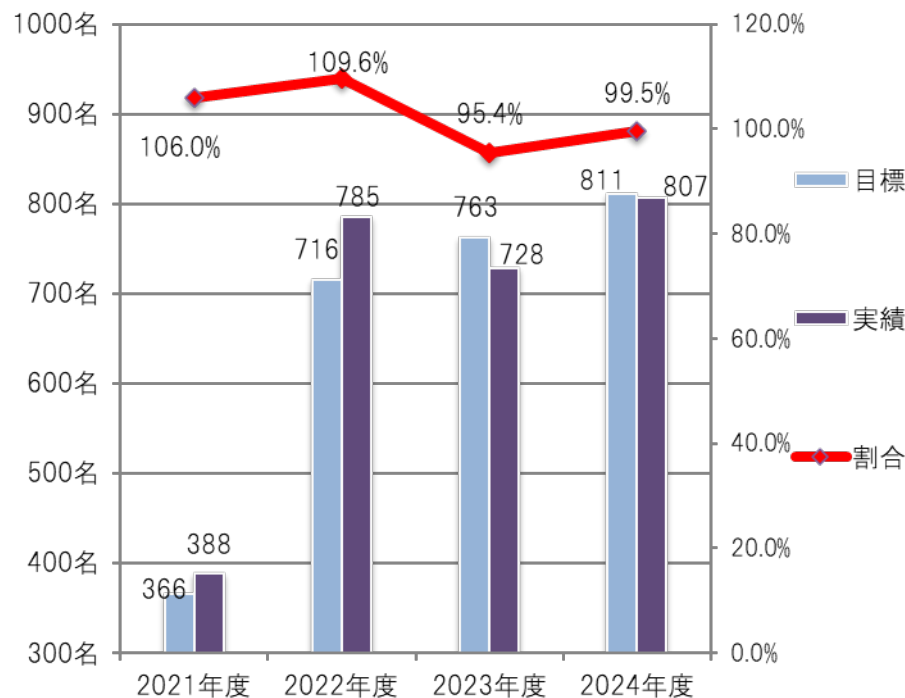
交流プログラムで留学した日本人学生数(派遣学生数)について

※個別派遣学生数の詳細は別表1を参照

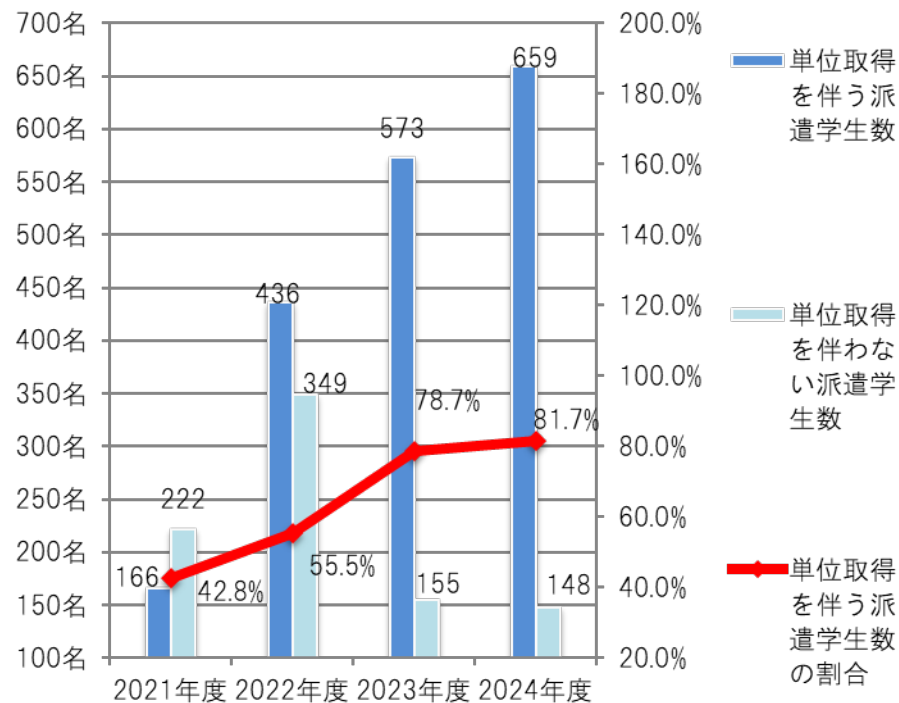
<全体の状況>

2024年度は、達成率99.5%と、ほぼ目標どおりの派遣を実現した。
あわせて、派遣学生のうち単位取得を伴う派遣学生の割合は81.7%となり、過去4年間で最も高い達成率となった。

達成目標に対する実績の割合(派遣)



単位取得を伴う派遣学生数



交流学生の実績

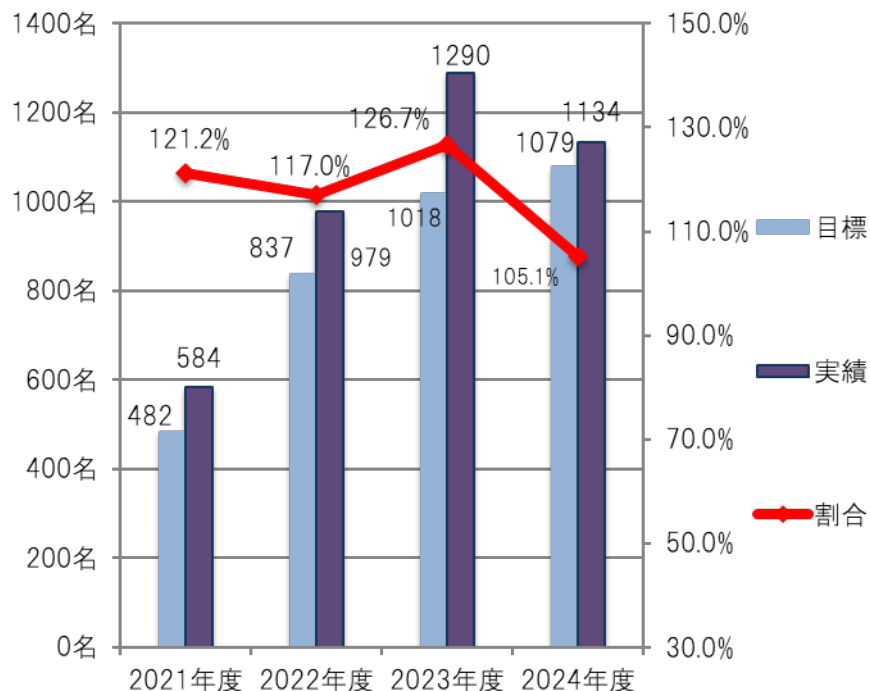
交流プログラムで受け入れた外国人学生数(受入学生数)について

※個別受入学生数の詳細は別表2を参照

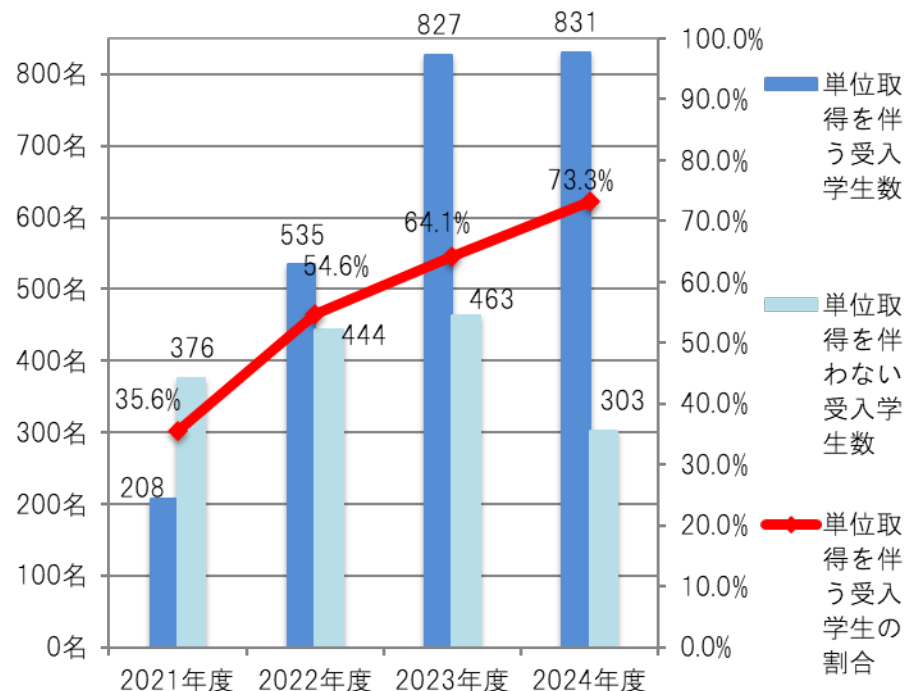
<全体の状況>

2024年度は、高い目標水準の中でも、計画目標を超える100%の達成率となった。受入学生総数のうち単位取得を伴う受入学生数は前年度と同水準を維持し、かつ73.3%と派遣同様、過去4年間で最も高い割合となった。

達成目標に対する実績の割合(受入)



単位取得を伴う受入学生の割合



別表1:プログラムごとの派遣学生数(2021年度採択)

(単位:人)

大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)														
			目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う派遣学生数						左記以外の派遣学生数								
						目標	実績	30日未満	3ヶ月未満	3ヶ月以上	目標	実績	30日未満	3ヶ月未満	3ヶ月以上					
千葉大学、芝浦工業大学	ソーシャル・デザイン・イニシアティブ	2021	12	48	400.0	12	48	0	0	0	48	12	0	0	0	0	0	0	0	0
		2022	12	123	1025.0	12	123	0	40	0	83	12	0	0	0	0	0	0	0	0
		2023	24	163	679.2	24	163	0	59	0	102	24	2	0	0	0	0	0	0	0
		2024	36	122	338.9	36	122	0	58	0	64	36	0	0	0	0	0	0	0	0
		2025	48	0	0.0	48	0	0	0	0	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	132	456	345.5	132	456	0	157	0	297	132	2	0	0	0	0	0	0	0
東京大学	アジアの国際関係・公共政策:DD、交換留学、オンライン教育のためのBESETO + NUS共同教育基盤形成	2021	13	12	92.3	13	12	0	0	0	0	13	12	0	0	0	0	0	0	0
		2022	10	14	140.0	10	14	0	0	0	0	10	14	0	0	0	0	0	0	0
		2023	10	11	110.0	10	11	0	0	0	0	10	11	0	0	0	0	0	0	0
		2024	12	13	108.3	12	13	0	0	0	0	12	13	0	0	0	0	0	0	0
		2025	12	0	0.0	12	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	57	50	87.7	57	50	0	0	0	0	57	50	0	0	0	0	0	0	0
東京藝術大学	日中韓+ASEANの文化・経済圏発展に向けた、アニメーション教育・研究のための共創プラットフォーム構築	2021	1	15	1500.0	0	0	0	0	0	0	0	1	15	0	15	0	0	1	0
		2022	8	19	237.5	7	7	0	0	0	0	7	7	1	12	0	12	0	0	1
		2023	10	11	110.0	8	6	0	0	0	0	8	6	2	5	0	5	0	0	2
		2024	10	19	190.0	8	9	0	0	0	1	8	8	2	10	0	10	0	0	2
		2025	10	0	0.0	8	0	0	0	0	0	8	0	2	0	0	0	0	0	2
		計	39	64	164.1	31	22	0	0	0	1	31	21	8	42	0	42	0	0	8
東京工業大学	日中韓新進科学技術4大学(T*KN)共同教育プログラム	2021	8	5	62.5	0	3	0	3	0	0	0	8	2	8	2	0	0	0	
		2022	18	23	127.8	3	11	0	9	0	1	3	1	15	12	11	8	4	2	0
		2023	18	10	55.6	3	2	0	2	0	0	3	0	15	8	11	3	4	1	0
		2024	18	10	55.6	3	4	0	0	0	0	3	4	15	6	11	3	4	3	0
		2025	18	0	0.0	3	0	0	0	0	0	3	0	15	0	11	0	4	0	
		計	80	48	60.0	12	20	0	14	0	1	12	5	68	28	52	16	16	6	0
東京海洋大学	持続可能な海洋開発・利用を実現する高度専門職業人養成プログラム-オーケナスプラス-	2021	6	22	366.7	6	2	5	0	0	0	1	2	0	20	0	20	0	0	
		2022	13	9	69.2	13	9	5	4	0	0	8	5	0	0	0	0	0	0	
		2023	15	8	53.3	15	8	5	5	0	0	10	3	0	0	0	0	0	0	
		2024	16	19	118.8	16	14	5	8	0	0	11	6	0	5	0	5	0	0	
		2025	16	0	0.0	16	0	5	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	
		計	66	58	87.9	66	33	25	17	0	0	41	16	0	25	0	25	0	0	
名古屋大学	東アジア共通法の深化と世界への発信にむけた法的・政策的プラットフォームを支える人材育成	2021	30	5	16.7	30	1	0	0	0	0	30	1	0	4	0	4	0	0	
		2022	30	41	136.7	20	9	0	0	0	1	20	8	10	32	10	32	0	0	
		2023	30	39	130.0	20	13	0	0	0	0	20	13	10	26	10	26	0	0	
		2024	30	25	83.3	20	7	0	0	0	0	20	7	10	18	10	18	0	0	
		2025	30	0	0.0	20	0	0	0	0	0	20	0	10	0	10	0	0	0	
		計	150	110	73.3	110	30	0	0	0	1	110	29	40	80	40	80	0	0	
大阪大学	グローバル社会における健康問題解決を担う医学・公衆衛生学研究者の育成	2021	72	46	63.9	32	4	28	3	1	0	3	1	40	42	40	42	0	0	
		2022	83	105	126.5	43	5	37	3	1	0	5	2	40	100	40	100	0	0	
		2023	84	16	19.0	44	2	37	0	2	0	5	2	40	14	40	14	0	0	
		2024	86	6	7.0	46	0	37	0	1	0	8	0	40	6	40	4	0	0	
		2025	88	0	0.0	48	0	37	0	0	0	9	0	40	0	40	0	0		
		計	413	173	41.9	213	11	176	6	7	0	30	5	200	162	200	160	0	0	
神戸大学	異分野共創によるリスク・マネジメント専門家養成共同教育プログラム	2021	16	13	81.3	16	13	0	0	0	0	16	13	0	0	0	0	0		
		2022	25	36	144.0	25	31	0	4	4	1	21	26	0	5	0	4	0		
		2023	27	62	229.6	27	55	0	26	4	0	23	29	0	7	0	7	0		
		2024	26	42	161.5	26	39	0	14	4	3	22	22	0	3	0	3	0		
		2025	27	0	0.0	27	0	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	0		
		計	121	153	126.4	121	138	0	44	16	4	105	90	0	15	0	14	0		
九州大学	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム-プログラムのパッケージ化とASEANへの展開-	2021	50	31	62.0	7	8	0	0	0	0	7	8	43	23	40	23	0		
		2022	85	59	69.4	37	34	27	27	0	0	10	7	48	25	46	24	0		
		2023	63	50	79.4	42	33	31	27	0	1	11	5	21	17	19	17	0		
		2024	65	26	40.0	13	7	0	0	0	0	13	7	52	19	50	19	0		
		2025	77	0	0.0	45	0	32	0	0	0	13	0	32	0	30	0	0		
		計	340	166	48.8	144	82	90	54	0	1	54	27	196	84	185	83	0		
九州大学	アジアのゼロ・エミッション持続循環型環境都市を牽引する人材育成・協働教育プログラム	2021	10	10	100.0	0	10	0	10	0	0	0	10	0	10	0	0	0		
		2022	27	31	114.8	15	28	10	28	0	0	5	0	12	3	12	3	0		
		2023	27	11	40.7	10	5	5	4	0	0	5	1	17	6	17	6	0		
		2024	34	17	50.0	17	7	10	5	0	0	7	2	17	10	17	10	0		
		2025	34	0	0.0	17	0	10	0	0	0	7	0	17	0	17	0	0		
		計	132	69	52.3	59	50	35	47	0	0	24	3	73	19	73	19	0		

タイプA①

長崎大学	アジアの大学間連携による持続的 社会基盤整備を支えるグローバル人 材育成事業	2021	0	6	-	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6	0	0	0	0	
		2022	8	10	125.0	8	2	0	0	0	0	8	2	0	8	0	0	0	0	0	8
		2023	10	12	120.0	10	12	0	0	0	0	10	12	0	0	0	0	0	0	0	0
		2024	12	8	66.7	11	8	0	0	0	0	11	8	1	0	0	0	0	0	1	0
		2025	11	0	0.0	10	0	0		0		10		1	0	0		0		1	
		計	41	36	87.8	39	22	0	0	0	0	39	22	2	14	0	6	0	0	2	8
早稲田大学	文明間対話促進のための文化的知性 を備えたソーシャルイノベーター共同 育成プログラム	2021	10	0	0.0	10	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2022	50	7	14.0	40	7	0	0	30	0	10	7	10	0	10	0	0	0	0	
		2023	55	24	43.6	45	7	0	0	35	0	10	7	10	17	10	17	0	0	0	
		2024	75	20	26.7	55	11	0	0	45	0	10	11	20	9	20	9	0	0	0	
		2025	85	0	0.0	65	0	0		55		10		20	0	20		0		0	
		計	275	51	18.5	215	25	0	0	175	0	40	25	60	26	60	26	0	0	0	
合計			1846	1434	77.7	1199	939	326	339	198	305	675	295	647	495	610	471	16	6	21	18
タイプA② 立命館大学、立命館アジ ア太平洋大学	東アジアグローバルリーダー養成のた めの、日中韓共同運営移動キャンパ ス	2021	61	72	118.0	32	34	0	0	0	32	34	29	38	29	38	0	0	0		
		2022	114	102	89.5	76	75	0	0	0	0	76	75	38	27	38	27	0	0		
		2023	116	89	76.7	78	53	0	0	0	0	78	53	38	36	38	36	0	0		
		2024	112	86	76.8	74	49	0	0	0	0	74	49	38	37	38	37	0	0		
		2025	112	0	0.0	74	0	0		0		74		38	0	38		0			
		計	515	349	67.8	334	211	0	0	0	0	334	211	181	138	181	138	0	0		
合計			515	349	67.8	334	211	0	0	0	334	211	181	138	181	138	0	0			
東北大学	アジア型デンティストリーコンソーシア ムによるマルチモーダルなグローバル リーダー育成	2021	10	24	240.0	2	24	0	24	0	0	2	0	8	0	0	0	5	0		
		2022	20	13	65.0	2	13	0	5	0	8	2	0	18	0	0	0	10	0		
		2023	20	20	100.0	3	20	0	13	0	7	3	0	17	0	0	0	12	0		
		2024	20	33	165.0	5	31	0	31	0	0	5	0	15	2	0	2	12	0		
		2025	20	0	0.0	5	0	0		0		5		15	0	0		12			
		計	90	90	100.0	17	88	0	73	0	15	17	0	73	2	0	2	51	0		
筑波大学	地球規模課題解決に資する教育政策 マネジメント専門人材育成プログラム	2021	20	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	20	0	0	0			
		2022	45	6	13.3	20	5	0	0	0	0	20	5	25	1	25	1	0			
		2023	50	13	26.0	20	7	0	0	0	0	20	7	30	6	30	6	0			
		2024	50	36	72.0	20	25	0	0	0	21	20	4	30	11	30	6	0			
		2025	50	0	0.0	20	0	0		0		20		30	0	30		0			
		計	215	55	25.6	80	37	0	0	0	21	80	16	135	18	135	13	0			
山梨大学	A31:アジア実問題解決駆動AI教育プロ グラム	2021	15	41	273.3	15	0	0	0	0	15	0	0	41	0	41	0	0			
		2022	30	15	50.0	30	6	15	2	0	0	15	4	0	9	0	9	0			
		2023	35	46	131.4	35	45	20	38	0	0	15	7	0	1	0	0	0			
		2024	40	50	125.0	40	50	20	42	0	0	20	8	0	0	0	0	0			
		2025	45	0	0.0	45	0	25		0		20		0	0	0		0			
		計	165	152	92.1	165	101	80	82	0	0	85	19	0	51	0	50	0			
タイプB① 名古屋大学	アジア諸国における炭素ゼロナイゼー ションのための人材育成	2021	22	25	113.6	22	0	0	0	20	0	2	0	0	25	0	25	0			
		2022	32	112	350.0	32	1	0	0	30	1	2	0	0	111	0	111	0			
		2023	42	85	202.4	42	85	0	3	40	1	2	81	0	0	0	0	0			
		2024	52	113	217.3	52	113	0	16	50	1	2	96	0	0	0	0	0			
		2025	52	0	0.0	52	0	0		50		2		0	0		0				
		計	200	335	167.5	200	199	0	19	190	3	10	177	0	136	0	136	0			
広島大学	インクルーシブ・マインドを醸成するア ジア地域国際協働人材育成	2021	10	7	70.0	10	7	0	0	10	7	0	0	0	0	0	0	0			
		2022	46	39	84.8	46	39	30	28	10	9	6	2	0	0	0	0	0			
		2023	46	34	73.9	46	34	30	14	10	17	6	3	0	0	0	0	0			
		2024	46	110	239.1	46	110	30	32	10	74	6	4	0	0	0	0	0			
		2025	46	0	0.0	46	0	30		10		6		0	0	0		0			
		計	194	190	97.9	194	190	120	74	50	107	24	9	0	0	0	0	0			
長崎大学	持続可能なアジアの水産と海洋環境を 実現する国際協働人材養成プログラ ム	2021	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		2022	6	3	50.0	6	3	0	0	0	3	6	0	0	0	0	0	0			
		2023	8	5	62.5	8	5	0	0	0	2	8	3	0	0	0	0	0			
		2024	10	4	40.0	10	4	0	0	0	3	10	1	0	0	0	0	0			
		2025	10	0	0.0	10	0	0		0		10		0	0	0		0			
		計	34	12	35.3	34	12	0	0	0	8	34	4	0	0	0	0	0			
立教大学	リベラルアーツの高度化に向けたアジ ア4大学共同体—国際共同副専攻に よるグローバルリーダー育成	2021	0	6	-	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6	0	0			
		2022	54	18	33.3	54	14	12	4	0	0	42	10	0	4	0	4	0			
		2023	73	19	26.0	72	7	24	4	0	0	48	3	1	12	1	12	0			
		2024	61	48	78.7	60	36	12	4	0	0	48	32	1	12	1	12	0			
		2025	61	0	0.0	60	0	12		0		48		1	0	1		0			
		計	249	91	36.5	246	57	60	12	0	0	186	45	3	34	3	34	0			
合計			1147	925	80.6	936	684	260	260	240	154	436	270	211	241	138	235	51			
総計			3,508	2,708	77.2	2,469	1,834	586	599	438	459	1,445	776	1,039	874	929	844	67			

別表2:プログラムごとの受入学生数(2021年度採択)

(単位:人)

大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)														
			目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う受入学生数						左記以外の受入学生数								
						30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上				
						目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績			
千葉大学、芝浦工業大学	ソーシャル・デザイン・イニシアティブ	2021	12	27	225.0	12	27	0	0	0	27	12	0	0	0	0	0	0	0	0
		2022	24	151	629.2	24	151	0	68	0	83	24	0	0	0	0	0	0	0	0
		2023	36	115	319.4	36	115	0	55	0	58	36	2	0	0	0	0	0	0	0
		2024	48	174	362.5	48	174	0	70	0	102	48	2	0	0	0	0	0	0	0
		2025	48	0	0.0	48	0	0	0	0	0	48	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	168	467	278.0	168	467	0	193	0	270	168	4	0	0	0	0	0	0	0
東京大学	アジアの国際関係・公共政策・DD、交換留学、オンライン教育のためのBESETO + NUS共同教育基盤形成	2021	12	11	91.7	12	11	0	0	0	0	12	11	0	0	0	0	0	0	0
		2022	12	12	100.0	12	12	0	0	0	0	12	12	0	0	0	0	0	0	0
		2023	11	14	127.3	11	14	0	0	0	0	11	14	0	0	0	0	0	0	0
		2024	12	13	108.3	12	13	0	0	0	0	12	13	0	0	0	0	0	0	0
		2025	12	0	0.0	12	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	59	50	84.7	59	50	0	0	0	0	59	50	0	0	0	0	0	0	0
東京藝術大学	日中韩+ASEANの文化・経済圏発展に向けた、アニメーション教育・研究のための共創プラットフォーム構築	2021	2	12	600.0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	12	0	12	0	0	2
		2022	15	46	306.7	12	27	0	16	0	0	12	11	3	19	0	3	0	0	3
		2023	19	57	300.0	13	30	0	0	0	0	13	30	6	27	0	26	0	1	6
		2024	19	63	331.6	13	17	0	0	0	1	13	16	6	46	0	46	0	0	6
		2025	19	0	0.0	13	0	0	0	0	0	13	0	6	0	0	0	0	0	6
		計	74	178	240.5	51	74	0	16	0	1	51	57	23	104	0	87	0	1	23
東京工業大学	日中韩新先進科学技術4大学(T4KN)共同教育プログラム	2021	10	27	270.0	0	0	0	0	0	0	0	10	27	6	27	4	0	0	
		2022	22	15	68.2	7	8	0	0	4	0	3	8	15	7	15	7	0	0	
		2023	28	12	42.9	7	12	0	0	4	8	3	4	21	0	21	0	0	0	
		2024	22	7	31.8	7	7	0	0	4	3	3	4	15	0	15	0	0	0	
		2025	28	0	0.0	7	0	0	0	4	0	3	0	21	0	21	0	0	0	
		計	110	61	55.5	28	27	0	0	16	11	12	16	82	34	78	34	4	0	3
東京海洋大学	持続可能な海洋開発・利用を実現する高度専門職業人養成プログラム-オケナスプラス-	2021	0	61	-	0	0	0	0	0	0	0	0	61	0	61	0	0	0	
		2022	40	63	157.5	18	14	10	10	0	0	8	4	22	49	22	49	0	0	
		2023	43	136	316.3	21	58	10	47	0	0	11	11	22	78	22	78	0	0	
		2024	43	32	74.4	21	11	10	0	0	0	11	11	22	21	22	21	0	0	
		2025	43	0	0.0	21	0	10	0	0	0	11	0	22	0	22	0	0	0	
		計	169	292	172.8	81	83	40	57	0	0	41	26	88	209	88	209	0	0	
名古屋大学	東アジア共通法の深化と世界への発信にむけた法的・政策的プラットフォームを支える人材育成	2021	26	8	30.8	26	8	0	0	0	0	26	8	0	0	0	0	0	0	
		2022	26	13	50.0	26	8	0	0	0	0	26	8	0	5	0	5	0	0	
		2023	26	25	96.2	26	16	0	0	0	0	26	16	0	9	0	9	0	0	
		2024	26	22	84.6	26	12	0	0	0	0	26	12	0	10	0	10	0	0	
		2025	26	0	0.0	26	0	0	0	0	0	26	0	0	0	0	0	0	0	
		計	130	68	52.3	130	44	0	0	0	0	130	44	0	24	0	24	0	0	
大阪大学	グローバル社会における健康問題解決を担う医学・公衆衛生学研究者の育成	2021	92	58	63.0	42	3	38	0	1	1	3	2	50	55	50	55	0	0	
		2022	103	158	153.4	53	20	47	15	1	2	5	3	50	138	50	138	0	0	
		2023	105	133	126.7	55	17	47	15	2	1	6	1	50	116	50	116	0	0	
		2024	108	23	21.3	58	0	47	0	2	0	9	0	50	23	50	19	0	0	
		2025	108	0	0.0	58	0	47	0	1	0	10	0	50	0	50	0	0		
		計	516	372	72.1	266	40	226	30	7	4	33	6	250	332	250	328	0	0	
神戸大学	異分野共創によるリスク・マネジメント専門家養成共同教育プログラム	2021	12	27	225.0	12	27	0	0	0	0	12	27	0	0	0	0	0	0	
		2022	22	43	195.5	22	42	0	0	0	2	22	40	0	1	0	0	1	0	
		2023	22	47	213.6	22	47	0	17	0	3	22	27	0	0	0	0	0	0	
		2024	22	91	413.6	22	91	0	13	0	3	22	75	0	0	0	0	0	0	
		2025	22	0	0.0	22	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	
		計	100	208	208.0	100	207	0	30	0	8	100	169	0	1	0	0	1	0	
九州大学	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム-プログラムのパッケージ化とASEANへの展開-	2021	28	55	196.4	6	30	0	20	0	0	6	10	22	25	20	25	0	2	
		2022	12	3	25.0	10	3	0	0	0	0	10	3	2	0	0	0	0	2	
		2023	88	69	78.4	11	6	0	0	0	0	11	6	77	63	75	58	0	5	
		2024	75	82	109.3	73	62	57	53	0	0	16	9	2	20	0	20	0	2	
		2025	60	0	0.0	16	0	0	0	0	0	16	0	44	0	42	0	0	2	
		計	263	209	79.5	116	101	57	73	0	0	59	28	147	108	137	103	0	5	
九州大学	アジアのゼロ・エミッション持続循環型環境都市を牽引する人材育成・協働教育プログラム	2021	7	20	285.7	7	6	0	0	0	0	7	6	0	14	0	14	0	0	
		2022	28	20	71.4	28	20	18	18	0	0	10	2	0	0	0	0	0	0	
		2023	28	14	50.0	28	7	18	0	0	0	10	7	0	7	0	7	0	0	
		2024	30	38	126.7	30	9	18	2	0	0	12	7	0	29	0	29	0	0	
		2025	30	0	0.0	30	0	18	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	
		計	123	92	74.8	123	42	72	20	0	0	51	22	0	50	0	50	0	0	

タイプA①

長崎大学	アジアの大学間連携による持続的 社会基盤整備を支えるグローバル人 材育成事業	2021	1	24	2400.0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	23	0	23	0	0	0	0
		2022	16	27	168.8	16	5	0	0	0	0	16	5	0	22	0	0	0	0	0	22
		2023	25	29	116.0	25	23	0	0	0	0	25	23	0	6	0	6	0	0	0	0
		2024	25	15	60.0	25	13	0	0	0	0	25	13	0	2	0	2	0	0	0	0
		2025	26	0	0.0	26	0	0		0		26		0	0	0		0		0	
		計	93	95	102.2	93	42	0	0	0	0	93	42	0	53	0	31	0	0	0	22
早稲田大学	文明間対話促進のための文化的知性 を備えたソーシャルイノベーター共同 育成プログラム	2021	30	0	0.0	30	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2022	60	4	6.7	60	4	0	0	50	0	10	4	0	0	0	0	0	0	0	0
		2023	70	34	48.6	70	7	0	0	60	0	10	7	0	27	0	27	0	0	0	0
		2024	80	39	48.8	80	10	0	0	70	0	10	10	0	29	0	29	0	0	0	0
		2025	90	0	0.0	90	0	0		80		10		0	0	0		0		0	
		計	330	77	23.3	330	21	0	0	290	0	40	21	0	56	0	56	0	0	0	0
合計			2135	2169	101.6	1545	1198	395	419	313	294	837	485	590	971	553	922	4	7	33	42
タイプA② 立命館大学、立命館アジ ア太平洋大学	東アジアグローバルリーダー養成のた めの、日中韓共同運営移動キャンパ ス	2021	69	93	134.8	36	46	0	15	0	0	36	31	33	47	33	47	0	0	0	0
		2022	105	105	100.0	65	67	0	0	0	0	65	67	40	38	40	38	0	0	0	0
		2023	113	106	93.8	73	65	0	0	0	0	73	65	40	41	40	41	0	0	0	0
		2024	120	109	90.8	80	68	0	0	0	0	80	68	40	41	40	41	0	0	0	0
		2025	120	0	0.0	80	0	0		0		80		40	0	40		0		0	
		計	527	413	78.4	334	246	0	15	0	0	334	231	193	167	193	167	0	0	0	0
合計			527	413	78.4	334	246	0	15	0	0	334	231	193	167	193	167	0	0	0	0
東北大学	アジア型デンティストリーコンソーシア ムによるマルチモーダルなグローバ ルリーダー育成	2021	10	15	150.0	3	15	0	13	0	0	3	2	7	0	0	0	5	0	2	0
		2022	20	37	185.0	4	2	0	0	0	0	4	2	16	35	0	35	8	0	8	0
		2023	20	68	340.0	5	10	0	0	0	0	5	10	15	58	0	58	12	0	3	0
		2024	20	57	285.0	5	6	0	0	0	0	5	6	15	51	0	47	12	0	3	4
		2025	20	0	0.0	5	0	0		0		5		15	0	0		12		3	
		計	90	177	196.7	22	33	0	13	0	0	22	20	68	144	0	140	49	0	19	4
筑波大学	地球規模課題解決に資する教育政策 マネジメント専門人材育成プログラム	2021	20	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	20	0	0	0	0	0	0
		2022	45	21	46.7	20	16	0	0	0	0	20	16	25	5	25	5	0	0	0	0
		2023	50	36	72.0	20	23	0	0	0	0	20	23	30	13	30	13	0	0	0	0
		2024	50	47	94.0	20	38	0	0	0	7	20	31	30	9	30	7	0	2	0	0
		2025	50	0	0.0	20	0	0		0		20		30	0	30		0		0	
		計	215	104	48.4	80	77	0	0	0	7	80	70	135	27	135	25	0	2	0	0
山梨大学	A31:アジア実問題解決駆動AI教育プロ グラム	2021	45	67	148.9	45	0	0	0	0	45	0	0	67	0	67	0	0	0	0	0
		2022	69	98	142.0	69	34	30	25	0	0	39	9	0	64	0	64	0	0	0	0
		2023	52	36	69.2	52	18	15	9	0	0	37	9	0	18	0	18	0	0	0	0
		2024	55	38	69.1	55	24	15	12	0	0	40	12	0	14	0	14	0	0	0	0
		2025	57	0	0.0	57	0	15		0		42		0	0	0		0		0	
		計	278	239	86.0	278	76	75	46	0	0	203	30	0	163	0	163	0	0	0	0
タイプB① 名古屋大学	アジア諸国における炭素ゼロナイゼー ションのための人材育成	2021	66	45	68.2	66	0	0	0	60	0	6	0	0	45	0	45	0	0	0	0
		2022	126	43	34.1	126	0	0	0	120	0	6	0	0	43	0	43	0	0	0	0
		2023	156	270	173.1	156	270	0	27	150	0	6	243	0	0	0	0	0	0	0	0
		2024	156	165	105.8	156	165	0	32	150	0	6	133	0	0	0	0	0	0	0	0
		2025	156	0	0.0	156	0	0		150		6		0	0	0		0		0	
		計	660	523	79.2	660	435	0	59	630	0	30	376	0	88	0	88	0	0	0	0
広島大学	インクルーシブ・マインドを醸成するア ジア地域国際協働人材育成	2021	40	34	85.0	40	34	0	0	40	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2022	64	94	146.9	64	94	18	19	40	70	6	5	0	0	0	0	0	0	0	0
		2023	64	72	112.5	64	72	18	18	40	50	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0
		2024	64	73	114.1	64	73	18	18	40	49	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0
		2025	64	0	0.0	64	0	18		40		6		0	0	0		0		0	
		計	296	273	92.2	296	273	72	55	200	203	24	15	0	0	0	0	0	0	0	0
長崎大学	持続可能なアジアの水産と海洋環境を 実現する国際協働人材養成プログラ ム	2021	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2022	6	5	83.3	6	5	0	0	0	5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2023	12	5	41.7	12	5	0	0	0	5	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2024	18	10	55.6	18	10	0	0	0	10	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2025	20	0	0.0	20	0	0		0		20		0	0	0		0		0	
		計	56	20	35.7	56	20	0	0	0	20	56	0	0	0	0	0	0	0	0	0
立教大学	リベラルアーツの高度化に向けたアジア 4大学共同体—国際共同副専攻に よるグローバルリーダー育成	2021	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2022	22	21	95.5	21	3	0	0	0	0	21	3	1	18	1	18	0	0	0	0
		2023	50	12	24.0	48	12	0	0	0	0	48	12	2	0	2	0	0	0	0	0
		2024	86	36	41.9	84	28	36	18	0	0	48	10	2	8	2	8	0	0	0	0
		2025	86	0	0.0	84	0	36		0		48		2	0	2		0		0	
		計	244	69	28.3	237	43	72	18	0	0	165	25	7	26	7	26	0	0	0	0
合計			1839	1405	76.4	1629	957	219	191	830	230	580	536	210	448	142	442	49	2	19	4
総計			4,501	3,987	88.6	3,508	2,401	614	625	1,143	524	1,751	1,252	993	1,586	888	1,531	53	9	52	46